

オーケストラのマエストロ

世の中で最も面白い職業は有能な人材を自由に操れるプロ野球の監督かオーケストラの指揮者（マエストロ）といわれる。彼等がそのトップを歩み続けるには待った無しの結果が求められ、観客に見せて、聴かせて、感動を与え、彼等に度重なる期待感を抱かせる責務がある。

オーケストラの構成は演目にもよるが100以上の演奏者からなり、弦楽器（バイオリン、ビオラ・・・）、管楽器（フルート、ホルン・・・）、打楽器演奏者とそれぞれのチームをまとめるパートリーダーがいて、全体を統率するコンサートマスター（第一バイオリン）が、最後にタクト一本で曲をまとめあげる誰もがその職を渴望するマエストロ（指揮者）からなる。

クリエイティブなオーケストラを維持していくには常にメンバーの新陳代謝を必要とする。定期的に再編されるオーケストラ・メンバーにはいかに優秀であっても学生あがりの新人が選ばれることはなく、あらゆる所で実力を蓄え、選びに選び抜かれた個性豊かな才能と技量を備えた人達を選ばれる。長年培われた最上級のオーケストラに異星人とも思える個性的で有能な新人が加わることになるが、既存のオーケストラメンバーは彼等をスナリと迎え入れてくれないばかりか、彼等に個性の抹殺、妥協と協調を強いる。しかしながらオーケストラが質を高めていくには個性豊かな優秀な新人を受け入れる創造的なマネジメントが要求される。

オーケストラを成功に導くにはチームの選定、メンバー全員の責任感、効率的コミュニケーションが求められる。さらには低レベルのランクに妥協することのないトップクラスの個人解決法とチーム適応の解決法との正しいバランス取りが肝要となる。

何だか私共の仕事場と似ているとは思いませんか。オーケストラにとってマニュアルやルーチンも大切なことではあるが、音楽にとって最も重要なことは楽譜に書かれていない行間を読むことだと言われる。

多様な個性から組織の調和を創る「オーケストラ・モデル」に触れてみませんか。

平成26年10月23日

はまゆう会会長 市丸 喜一郎

参考書：「オーケストラ・モデル」

クリスティアン・ガンシュ

シドラ房子 訳

阪急コミュニケーションズ2014.東京

（新王子病院4階 私の本棚）